

第86号

平成26年2月14日

高二 中村文俊  
高二 山口和晃

# 読書三昧

甲南中学・高校  
図書館  
図書委員会  
芦屋市山手町  
31番3号

## 4年ぶりの開催！文化祭で本を販売 古本市のご報告



今年の文化祭で僕たち図書委員は古本市を行いました。場所は中学1年e組の教室です。図書委員の約二十五名が古本市の運営をしました。古本市は基本的に二年ごとに開催しているのですが、一昨年は東日本大震災を契機に、東北の学校に本を送るプロジェクトを行ったため、古本市としては四年ぶりの開催でした。古本市にご来場いただいた方々や、たくさんの本を提供してくださった方々に感謝いたします。本当にありがとうございました。なお、古本市で回収した本の冊数は約千七百冊ですが、そのほか収益などは次ページに載せています。

古本市を行うにあたって、まず提供していただいた本を種別別に仕分けました。珍しい本などもあり、この分別作業は楽しいものでした。中には懐かしいなど思う本や自分たちが昔遊んでいたキヤラクターやアニメ関連の本などもありました。本を販売する際にはそれぞれの本に価格を設定する必要があります。

また、四年ぶりの古本市ということで、前回の様子を記録した資料などがなかったため、どのような感じで本を並べるのか、皆ほぼ初めてといった動きになりました。当日もちゃんと販売できるか心配でしたが、目立ったトラブルもなく無事に開催できました。古本市の終盤には、古本市を開催してみてもわかったさまざまな反省点もありました。

格を設定する必要があります。あるのですが、その際にいただいた本がよい本ばかりで判断が難しかったのです。それでもなんとか無事に設定することができました。

文化祭の開始は九時三十分だったのに、開店時間が十時からだったこと。九時三十分に来店してくれた中学生、ごめんなさい。他にも古本市の場所や金券での販売など皆様に伝達できなかった事もありました。



(古本市準備中の様子)

次回開催時は今回の反省を含め、金券での販売限定など啓発していきたいなど思っています。

次回は再来年度(二〇十五年)開催予定です。今回よりもパワーアップした古本市にしたいと考えていますので、ご期待ください。

### 目次

- 1 文化祭古本市
  - 2 読書月間プラネタリウム
  - 3 灘甲戦読書会
  - 4 図書委員研修会、取材
  - 5 国語科 覚野先生
  - 6 図書委員店頭選書
- 編集後記

改めて、古本市での古本の寄贈にご協力いただいた方々、当日にご来場いただき

いた方々や育友会の方皆さま、そして教室を提供してくれた中

この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。(高一 中村文俊)

【報告】

この度、図書委員会では古本市収益金のうち、1万円を全国図書館協議会の「へき地への図書館支援」に募金させていただきました。このプロジェクトは、人口が少ない地域の図書館に本を届けるものです。甲南中高図書委員会は今後も募金活動を継続していきたいと思っております。



【文化祭 古本市】

開催日：2013年11月3日 (日)
提供していただいた本：1694冊

古本市当日の販売冊数：567冊
(その他はブックオフに買取りしていただきました。)

総売上：52,132円

古本市売上：40,190円
ブックオフ買取額：11,942円

売上のうち、10,000円は寄付しました。残額の使途については次号にてご報告いたします。

大反響を生んだ
プラネタリウム

図書館読書月間 11月25～27日



今年度の図書館の読書月間のテーマは「科学」で、アイソン彗星が近づくこともあり、今年「プラネタリウム」を作成し、図書館で上映しようという企画があり、ぼくたち図書委員の有志五名が協力することになりました。放課後や休日を使い、作成したプラネタリウムは直径が三メートル以上もある巨大なものです。(左の写真参照)

このプラネタリウムを使って、副校長で館長でもある山内先生に星についての講義をしてもらった。司書の山本さんに星座の本の読み聞かせをしていただいたりしました。プラネタリウムに入れる人数が限られているため、一回の講演で平均七・八人程度でしたが、予定していたよりも多くの人が参加してくれたため、プラネタリウム内の気温と湿度がかなり高くなりました。途中で何度も換気をしなければならぬほど盛況でした。また先生方も多く参加されました。プラネタリウムの開催については、図書委員以外の人も手伝ってくれたので、少ない図書委員の人数でもなんとか最後までやり遂げられました。

来場者の中には何人も鑑賞するリピーターの人もいて、鑑賞後にプラネタリウムの隣で上映していたアイソン彗星到来のニュースの番組に見入る人もいました。実際に見てみようとおっしゃっていた先生もいらっしやいました。残念ながら、アイソン彗星は地球に来る前に太陽の近くで消滅してしまいましたが…。

協力者の声

◆今回企画されたプラネタリウムは段ボールを切り分けるところからと聞いておどろきました。放課後ちよこちよ (高一 山口和晃)

今回のプラネタリウム上映会では色々失敗した点もありましたが、その失敗の原因や対処法も考慮したうえで、来年の文化祭では大規模なものができるかなどと考えています。(あくまでも予定ですが…) 来年の文化祭にも来られたら、ぜひ図書委員の場所にも足を運んで頂きたいと思えます。(高一 山口和晃)





は本校からは4名が出席。兵庫県内の私立の学校から図書委員残暑が厳しい中、が集美り、滝川などから50人ほどが参加しました。今回の議題は、「POPの効果的な作り方について」です。POPとは書店等で店員さんなどが名刺サイズにおすすめコメントやあらすじを書いたものです。

研修会では1班4〜5人に分かれて、最初に自己紹介や図書委員活動、自分たちがそれぞれ作ってきたPOPの紹介をしました。各班にはさまざまな学校の人が集美り、数日前にPOPを完成させた生徒もいれば、前日に完成させた生徒もいました。他校の図書委員活動を紹介してもらったり、自分で作った本のPOPについてアドバイスを、や批評をいただき、

自分のためになりました。その後、班で代表作を選考してリーダーが他の班の方々に紹介しました。また県立図書館職員の奥村さんから効果的なPOPの作り方や注目を浴びるPOPの講座を受けました。例えば2013年ユーキャン流行語大賞にノミネートされた東進ハイスクール現代文講師、林修先生の「今でしょ!」やTBSドラマ「半沢直樹」で決めゼリフとして使われた「倍返しだ!」など、利用者の皆さんやお客様が立ち止まるような注目を浴びるキャッチフレーズや言葉が大切だと学びました。文字数を少なく、いかに皆さんに注目してもらえようかなフレーズが必要だということです。最後に、班で改めてPOPを作り、図書委員全員で投票をしました。あつという間に過ぎた3時間でしたが、班の中ではもちろんいろいろ

お話しすることができましたし、班以外の方々とも話をすることができました。今回の研修会に参加して、改めて他校の図書委員会が自分たちより活動的であるなど思いました。例えば本校では、高校生の図書委員は週に1回、昼休みにカウンター当番があります。しかし他校では、一ヶ月に一回新聞を作ったりなど、活動的な学校もありました。図書委員研修会に参加して勉強になり今後の活動にも効果がありそうです。

(高一 中村文俊)

\*\*\*

介とそれぞれの評価そしてそれぞれ班で一つ代表作を決めて発表したが、改めて皆さんのPOPを見てこうすればよかったなと思うことが多々あった。

県立図書館の職員の方々からアドバイスの効果的な作り方を教えてもらって班で代表作を作ったがコミュニケーションや会話が増えて非常に楽しい一日であった。

甲南図書委員会としても今後、このようなイベントに積極的に参加して参加回数を増やすべきだなと思った。

(高一 中村文俊)

◆ 私は、9月に行われた図書委員研修会に参加しました。その研修で、私は貴重な時間を過ごせたように思います。同じ班になる人とうまく話ができるか少し不安でしたが、班のメンバーはみんな明るい人で、すぐに打ち解けることが出来ました。

そして班の人と話しながらだったので、とても楽しく作業をすることが出来ました。他にも、作ってきたPOPの中から一つの作品を選び、他の班に紹介したり、班全員で協力して一つのPOPを作り、全員で投票して1位を決めたりしました。とても楽しかったので、また研修会があったら参加してみようと思えました。

(高一 平田奨)



# 本を探すといいこと

国語科 覚野吾郎 先生

読書にまつわるお話を、というご依頼をいただいたとき、本の紹介、読書の体験、読み方など切り口はいくつか思いついたが、ちよつと違う切り口で今回書くことにする。小さな頃から、身の回りに本がある環境ではあった。外でよく走り回って遊んでもいたが、絵本も含め、本を見るのは好きだった。小学校の頃は、小学生向けの伝記小説もよく読んだと思うし、気に入れば同じ本を何度も読むこともあった。斉藤隆介の「天の赤馬」、ケストナーの「飛ぶ教室」、井上靖の「しろばんば」、ハイエルダールの「コンチキ号漂流記」などなど。国語の教科書もどんな話が載っているのかいつも楽しみであった。ただ、本を選ぶという点では、自分でというのもあったが、どちらかといえば、買ってもらったり、教えてもらったりが多かった。

大きく変わったのは大学からで、今の私の読書は大きく分けて二種類ある。それは、本の探し方に表れていると思う。一つは、何を読みたいか、明確な意志を持って探した本を読む場合である。そのときは、ある知識が欲しい場合や、特定の作者の本を読みたい場合である。こういったとき、アマゾンなどインターネットで探すのは非常に効率がいい。図書館でも検索をかければ、すぐ棚にまで行ける。もう一つは、特に何が読みたいということもなく、興味を持った本を手に取り、目次を見、気に入れば読む場合である。このときは、本屋や図書館で検索をかけずらふらと棚を回りながら本を探すがたたくさんの出会いに恵まれる。興味を持って手に取った本の横やたまたま視線を移したその先に、おつ、こんなのもあるんやという全然違うジャンルとの出会いがある。イン

ターネットではこうはいかない。最近では興味のあるものを勝手にピックアップもしてくれ、手っ取り早く本を探すにはいいが、後者のような本の探し方には向かず、嬉しい出会いがあまりない。

本は、知識を手に入れるためには非常に有効なものだと思う。でも、もつと魅力的なのは、自分の知らない世界に触れることである。目の前が開け、視野が広くなり、見えていなかったものが見えたとき、本当にワクワクする。前者のような本の探し方だけしていると、たしかに知識も増えるし、自分の好きな物が増えて満足感に浸ることはできる。インターネットを使えば、それが簡単に早くできる。喜ばしいことだし、どうしても偏ったり、ある枠から出られなくなる。固定化しやすい。後者のような探し方だと自分が持っている枠からはみ出ることができる。食わず嫌いしていたものが、実は大変おいしいことだってある。自分の尺度で測れなかったものが、測れるようになる。知識だけではない。語彙が増えることによつて、世界が広がり、いろんな感受性に触れることで、自分もまた触発されていく。本は自分の限界を超えさせてくれる貴重な物だ。

自分の世界はやはり狭い。ちっぽけなものだ。読書によつて、感じられなかったことが感じられたり、考えられなかったことが考えられたり、直接的にせよ間接的にせよ影響があるのが楽しい。違う視点を持つことが楽しい。本屋をぶらつくのは、やはり楽しい。

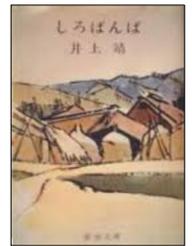
この図書委員、まさかのインタビュー！

## 図書委員、まさかのインタビュー！

一月二十四日、この図書委員にもとうとうメディア関係の方々からインタビューを受ける事となった。二〇一四年度から委員長が掲げていく目標の「改革」、その第一歩を踏み出すには相応しい機会だったので

はないかと思えます。インタビューという機会は滅多にないため、皆が緊張して中々質問に答えられない人が沢山いました。インタビューの内容は「活動記録」「図書委員になったきっかけ」「図書館の魅力」「これからの目標」「図書委員のおススメの本」等でした。中学生と高校生で合計9人が参加し、それぞれ本に対する熱い思いを語っていました。「図書館の魅力」の質問では「アットホームな雰囲気がある」と答えましたが、仲が良いだけで割と下級生と仕事をやる場面が少なかったため、このような答えが出たのかな…。

(高一 山口和晃)



# 師走の店頭選書

寒さが一段と厳しくなった十二月下旬、ジュンク堂三宮センター街店で図書委員約十名による店頭選書を行いました。開店と同時に図書委員が図書館に置いてほしい本や、皆さんに読んでもらいたい本などを約1時間ほど探しました。ジュンク堂の1階から最上階までさまざまなコーナーを図書委員が探し数十冊購入しました。ちなみに図書委員が選書した本は図書館に所蔵していますので、ぜひ一度お立ち寄りください。

## 『人生相談は真夜中のバーで』

『人生相談は真夜中のバーで』。似たような題名の本はどこかで聞いたことのある気がして、気になったので入れてもらった本です。内容はバーの客が抱えている悩みを解決するという大雑把に言えばミステリーものですが、他の本との違いは相手の相談を根本から解決することが出来ないだけでなく、そのアドバイスが毎回毎回裏目に出てしまい、どの話を読んでも最後は綺麗に話が終わりません。



普通のミステリーに飽きた人には特にオススメの本です。  
蒼井上鷹 高一 山口和晃 (Y/あお)

梅原淳 (686. 7/ウ)

## 『なぜ風が吹くと電車は止まるのか』

いつも通学や旅行などで阪急・阪神・JRなどの鉄道を使っている人は多いと思います。皆さんの鉄道に対するイメージはどんなものがあるでしょうか? 「いつも時間通り走っている」というイメージが浮かぶ人が多いかと思えます。

ですが、実際はそうではありません。むしろ結構な頻度で遅れたりの止まったりします。ついこの間(1月27日)も、JR舞子駅で6時頃に人身事故が発生。須磨〜西明石駅が7時30分頃まで、およそ1時間半にわたって運転見合わせとなりました。遅刻しそうなった人も多いのではないのでしょうか? しかし、意外と人身事故の対策は難しいのです。

ほかに、今年4月に起きた地震で、京阪神すべての鉄道が一時運休。登校することができなかった方もいるでしょう。「なんで地震で止まるの?」などという疑問も持っているの?」と思っ

た方もいるでしょう。そんな時に役に立つのがこの本。タイトル通り、鉄道によって脅威ともいえる「風」と「鉄道」の関係や、人身事故の対策が難しい・進まない理由、さらには災害時のことまで教えてくれます。「いつも正確に動いていて当たり前」という鉄道のイメージを変えたいの?」の1冊。鉄道の遅れにイライラした時でも安心して読んでみてください。

高一 平田奨



## その他の本 (一部抜粋)

### 『日本の軍艦 これくしょん』

日本の軍艦研究会 (556. 9/N)



### 『365日のベッドタイム・ストーリー』

アリソン (Y/A)



### 『読むだけでなぜかギターが上手くなる 音楽理論の本』

浦田泰宏 (763/55/ウ)



## 編集後記

今回は前年度よりも作業メンバーが少なかった分、毎日ほぼ決まった3人が図書館の書庫に残って作業という状態が続いていました。慣れてしまえば、苦痛というわけでもなく、二年目ということもあり作業スピードは中々なものだったのではないかと自負しています。とはいえ本当に手伝ってくれる人は去年から引き続き間接的に協力してくれたおかげで、煮詰まった時はその人たちと話しながら作業をしていたので、本当に感謝しています。

掲載している内容は今回も感想文が多めでしたが、次号では特集を組んでみたいな〜と思っています。次号でも書いているかは分かりませんが。

### 編集者一覧

- 高2 中村文俊
- 山口和晃
- 武仲雄輝
- 平野伊織
- 高1 平田奨
- 轟悠
- 中3 筒井豪久